



N.Inaba

サマースプリントシリーズ

THE SANKEI SHO
CENTAUR STAKES

第38回 産経賞 セントウルステークス (GII)

1着 2着 3着 4着 5着
 本賞 59,000,000円 24,000,000円 15,000,000円 8,900,000円 5,900,000円
 付加賞 1,260,000円 360,000円 180,000円



レース映像は
 コチラでご覧
 いただけます。

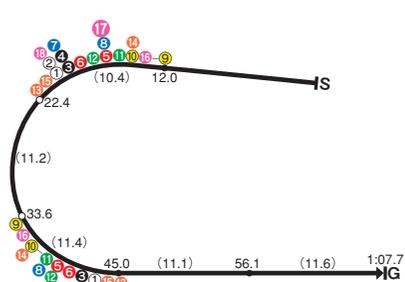
3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳55%、4歳以上57%、牝馬2%減、2023.9.9以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2%増、
 牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1%増、2023.9.8以前のG I競走(牝馬限定
 競走を除く)1着馬1%増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.9.8 中京 晴・良 芝1200m (国際) (複定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	トウシンマカオ	牡 57	菅原明良	1:07.7	11-10	33.1	474(-6)	6.4②	高柳瑞樹(美浦)	114	
2	⑧	ママコチャ	牝 57	鮫島克駿	1/2	3-3	33.9	498(+10)	8.0④	池江泰寿(栗東)	112	
3	①	モズメイメイ	牝 4	55 関分恭介	3/4	3-3	34.0	464(±0)	10.9⑦	首無秀孝(栗東)	106	
4	②	アネコハダ	牝 5	55 角田大和	1/4	3-3	34.1	466(+6)	189.8⑩	佐々木晶三(栗東)	103	
5	⑪	トゥラヴェスーラ	牡 9	57 藤岡佑介	ハナ	14-13	33.3	480(+4)	79.5③	高橋康之(栗東)		
6	⑤	アサカラキング	牡 4	57 齋藤 新	アタマ	2-2	34.3	524(±0)	12.9⑨	齋藤 誠(美浦)		
7	⑩	テンハッピーローズ	牡 6	56 津村明秀	クビ	10-10	33.6	466(+8)	10.7⑥	高柳大輔(栗東)		
8	⑦	ヨシノイスター	牡 6	57 丸山元氣	ハナ	6-6	34.0	488(+4)	7.8③	安田翔伍(栗東)		
9	⑤	サウザンサニー	牡 4	57 菱田裕二	クビ	11-10	33.6	520(-6)	11.6⑧	岩戸孝樹(美浦)		
10	⑥	キミワクイーン	牝 5	55 岩田望来	ハナ	11-13	33.3	446(-4)	30.7⑩	栗村 武(美浦)		
11	⑥	ジョウショーホープ	牡 4	57 西村亨也	クビ	9-9	33.8	474(-4)	36.8⑩	新谷功一(栗東)		
12	④	ダノンスコーピオン	牡 5	58 戸崎圭太	アタマ	15-15	33.1	478(+8)	9.0⑤	福永祐一(栗東)		
13	⑨	ビュローマジック	牝 3	53 横山和生	3/4	1-1	34.8	456(+4)	3.9①	安田翔伍(栗東)		
14	③	グレイトゲイナー	牡 7	57 池添謙一	クビ	6-6	34.2	468(-2)	155.6⑩	森 秀行(栗東)		
15	④	ストーンリッジ	牡 7	57 松山弘平	1/2	6-6	34.3	464(-10)	102.0⑩	藤原英昭(栗東)		
16	⑩	ティエムスパーダ	牝 5	56 酒井 学	1/2	15-15	33.6	494(+4)	69.3⑩	木原一良(栗東)		
17	⑨	ミッキーハーモニー	牡 5	55 浜中 俊	クビ	18-18	33.0	462(-2)	54.8⑩	萩原 清(美浦)		
18	⑥	カリポール	牡 8	57 杉原誠人	1/2	17-17	33.5	492(+8)	268.1⑩	西村真幸(栗東)		

単勝⑦640円(2%) 複勝⑦240円(2%) ⑧260円(4%) ①360円(8%) 枠連⑧-⑩1,950円(10%)
 馬連⑦-⑩2,050円(4%) ワイド⑦-⑩830円(6%) ①-⑦1,900円(26%) ①-⑩1,750円(25%)
 馬単⑦-⑩4,010円(8%) 3連複①-⑦-⑩9,640円(35%) 3連単⑦-⑩①47,820円(138%)



通過タイム: 600m 800m 1000m
 33.6 - 45.0 - 56.1 上り: 800m 600m
 45.3 - 34.1

アラカルト

- 菅原明良騎手はセントウルS初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算11勝目
- 高柳瑞樹調教師はセントウルS初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算8勝目
- ビッグアーサー産駒はJRA重賞通算5勝目
- 5歳馬の勝利は20年ダノンスマッシュに続く通算13回目
- トウシンマカオはスプリンターズS(G I)に優先出走できる

トウシンマカオ Toshin Macau

牡 栗毛 2019.5.1生
 北海道新ひだか町 服部牧場生産
 馬主・榊サトー 美浦・高柳瑞樹厩舎
 馬名意味・冠名+地名

サスペンスクイーンUSA系 F4H

ビッグアーサー 鹿毛 2011	サクラバクシンオー 鹿毛 1989	サクラユタカオー サクラハゴロモ
	シャボナUSA 鹿毛 2005	Kingmambo Relish
ユキノマーメイド 栗毛 2003	スペシャルウィーク 黒鹿毛 1995	サンデーサイレンスUSA キャンペンガール
	サスペンスクイーンUSA 栗毛 1991	Woodman Crystal Cup

5代までのインブリード：Mr.Prospector S4×M4 Nijinsky M4×M5
 Northern Dancer S5×S5×M5

INTERVIEW

服部健太郎代表(服部牧場)

一段と強くなったことを実感しました

これまで中京競馬場では勝ち星がなく、この馬には合わないのかと思っていましたが、4コーナーからの鮮やかな差し切り勝ちを見て、一段と強くなったことを実感しました。次のスプリングSに向けていいレースになったと思います。今年生まれた当歳、昨年生まれの1歳馬もトウシンマカオの全きょうだいですが、この2頭にも期待しています。

T.Miki



先頭へ突き抜けて勝負を決めた。これまで4戦して3着以内がなかった中京コースをはじめ、「外に張る面がある」という左回りではもうひとつ安定感に欠けた本馬。しかしこの日は馬群の外々を回る形から力強い差し脚を繰り出し、一段上の「充実」を印象付けた。3、4歳時に連覇した京阪杯今年3月のオーシャンSに続き、これで重賞4勝目。頂点のタイトルがいよいよ射程に入ってきた。

父ビッグアーサー

北海道浦河町 バンブー牧場生産 中央、香15戦8勝(高松宮記念^{G1}、セントウルS^{GII}、京阪杯^{GIII}2着、北九州記念^{GIII}2着、阪神C^{GII}3着)、18年から供用(代表産駒)トウシンマカオ(本馬)、フトンドール(函館2歳S^{GIII}、ファンタジーS^{GIII}2着)、ビッグシーザー(マーガレットS・L、淀尻距離S・L、オーシャンS^{GIII}2着、葵S^{GIII}3着)、ブーケファロス(マーガレットS・L2着)、クリスアーサー(中京2歳S^{OP})、ビッグドリーム(中京2歳S^{OP}2着)

母ユキノマーメイド

北海道静内町 服部牧場生産 中央31戦4勝(おおぞら特別、駒ヶ岳特別)シレーナ(11 牝父アドマイヤムーン)中央3戦0勝、地方47戦4勝
ベストダンク(12 牝父タイキシャトルUSA)中央57戦7勝(都大路S・L、米子S^{OP}、錦S、舞子特別、マイラーズC^{GII}2着、カシオペアS・L2着、小倉日経オープン^{OP}2着、ポートアイランドS^{OP}2着)、障害2戦0勝
 サンキュー(13 牝父タイキシャトルUSA)中央34戦3勝(RKB賞)、地方19戦3勝(赤松杯2着、兵庫ウインターC3着)
 ハルカノテソーロ(14 牝父ハービンジャーGB)中央17戦2勝
 フラッシュスタイル(15 牝父エイシンフラッシュ)中央10戦1勝
 サクセスファイター(16 牝父ハービンジャーGB)中央9戦1勝
 ユキノグローリー(17 牝父ヴェリスタIRE)中央15戦2勝、障害4戦0勝
 ユキノフラッシュ(18 牝父エイシンフラッシュ)中央16戦2勝

トウシンマカオ 本馬(19 牝父ビッグアーサー)中央19戦7勝(セントウルS^{GII}、オーシャンS^{GIII}、京阪杯^{GIII}2回、オパールS・L、クロッカスS・L、京王杯2歳S^{GII}2着、キーンランドC^{GIII}3着、函館スプリントS^{GIII}3着)獲得賞金292,669,000円

ユキノグレース(20 牝父ビッグアーサー)中央4戦0勝、地方7戦0勝
 サンエイキャノン(21 牝父パイロUSA)地方15戦4勝(スプリングC3着)(22 牝父ドレフォンUSA)
 (23 牝父ビッグアーサー)
 (24 牝父ビッグアーサー)

祖母サスペンスクイーンUSA

中央3勝(朝柱山特別)、93年輸入、13年死亡
 アーチーフイート(99 牝父トニービンIRE)中央3勝(朝日岳特別)、障害1勝
 ユキノマーメイド(03 前出)

曾祖母クリスタルカップ Crystal Cup

アメリカ産 北米0勝、**イクタマル** Iktamal(スプリントC・英³)の母

5歳の実力馬が4つ目の重賞制覇

関西ブロックの秋競馬は夏競馬の後半戦に引き続いて中京で開幕。サマープリントシリーズの最終戦にして、スプリングSの前哨戦とも位置付けられているセントウルSは、高松宮記念と同じ中京・芝1200mを舞台に争われた。3頭のG1ウイナーをはじめとする多彩な顔触れが集結したなか、1番人気に支持されたのは葵S、北九州記念と重賞2連勝中、1着ならシリーズの王座にも輝く3歳牝馬ピュロマジック。しかしハイレベルの混戦ムードに断を下したのは、対抗候補と目されていた5歳の実力馬トウシンマカオだった。

この日も抜群のダッシュ、むしろ抑え気味の手応えで飛び出してアツサリと先制。大外枠から意欲的にポジションを取りに行った昨年の最優秀スプリンター・マモコチャが好位集団の一角につけ、3番人気に支持された北九州記念の2着馬ヨシノイースターはその背後を進む。一方、トウシンマカオの菅原明良騎手はウィクトリアマイルの覇者テンハッピーローズの直後、中団馬群の外で折り合いに専念し、仕掛けのタイミングを窺った。

前半600mの通過が33秒6と比較的、落ち着いたラップを刻んだピュロマジックは直線の坂上まで先頭を守ったが、残り200m地点を過ぎて急激に失速。かわってマモコチャが先頭に立ち、シリーズ優勝の可能性を残すモズメイイが最内から懸命に詰め寄る。とはいえ、馬場の真ん中に持ち出されて加速にかかったトウシンマカオは2頭を凌駕する末脚を發揮。一気に先頭へ突き抜けて勝負を決めた。